

鉄道駅の更なるバリアフリー化のための 新たな料金制度等について

＜交通政策基本計画※における鉄道駅バリアフリー化の方針＞ ※令和7年度までの交通政策に関する基本計画（5月28日閣議決定）

◆ 令和7年度までの整備目標

	旧目標（令和2年度まで）	新目標（令和7年度まで）
段差解消 （エレベーター等 の設置）	3千人以上/日の駅 （実績:令和元年度末） 91.8%で段差解消済み	2千人以上/日の駅 （最大+305駅※） ※3千人以上/日の段差未解消駅とあわせ、最大+597駅
ホームドア	約800駅 （実績:令和元年度末） 858駅	3,000番線 （+1,047番線※） ※整備ペースを2倍に加速化 うち10万人以上/日の駅 800番線 （+353番線）

◆ 整備促進のための枠組み

『鉄道駅のバリアフリー化の推進は、エレベーターやエスカレーター、ホームドア等の整備を通じ、高齢者や障害者だけでなく、全ての利用者が受益するとの観点から、都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める枠組みを構築するとともに、地方部において既存の支援措置を重点化することにより、従来を大幅に上回るペースで全国の鉄道施設のバリアフリー化を加速する。』

1. 制度概要

- 想定事業者：現在、JR本州3社及び大手民鉄等事業者が、三大都市圏内の駅を主な対象として導入を検討中。
- 対象設備：ホームドアやエレベーター等。
- 対象費用：対象設備に係る整備費（維持更新費含む）。
- 導入時期：本年内に鉄道事業法に基づく料金（事前届出制）の対象に追加する省令改正（パブコメ含む）を実施。

2. 徴収水準

- 料金額の設定に当たっては、第2次交通政策基本計画における「都市部において利用者の薄く広い負担も得てバリアフリー化を進める枠組みを構築する」との考えを踏まえ、利用者に過度の負担感を与えないものとする。
※ 「5円までの上乗せについては84%、10円までは65%が賛成」との利用者アンケート結果（H30.4実施）あり。
- また、通学定期料金については免除するなど家計負担へ配慮することを求める。

3. 透明性の確保

- 事業者において、事前届出時に整備・徴収計画を公表するとともに、毎年度、整備・徴収実績を公表。
- 国土交通省において、事前届出の際及び目標期間終了時（令和7年度末）等において、徴収額がバリアフリー整備額を超えていないことを確認することで、透明性を確保。
- 鉄道固有の設備であるホームドアは、市場原理が働きにくいことを踏まえ、その整備に当たっては、国における公共工事の請負契約と同様、一般競争入札に付すことを原則とするとともに、やむを得ず、随意契約とする場合は、整備実績の公表にあわせ、その理由や整備額等を事業者公表させる。これにより、利用者が他社と比較することを可能にする。

4. 導入効果

- 本料金の導入により、新たなバリアフリー目標を達成できる見込み。

提言 (H30.9)

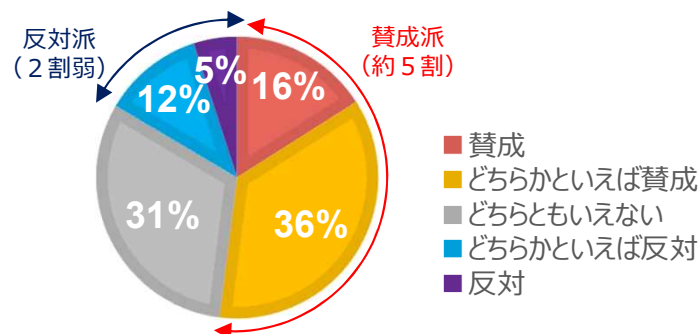
- 更なるバリアフリー化の加速化に向け、**利用者にも一定の負担を求めることができる新たな料金制度の導入を提言**

「バリアフリー化は、高齢者や障害者のためだけでなく、広く利用者全体に裨益するものであるとの観点に立ち、より一層安全で快適な移動に資する更なるバリアフリー化を迅速に進めるため、利用者にも料金として一定の負担を求めることができる仕組み（「更なるバリアフリー加速化料金(仮称)」）の導入を提言する。」（提言抜粋）

アンケート結果 (H30.4実施)

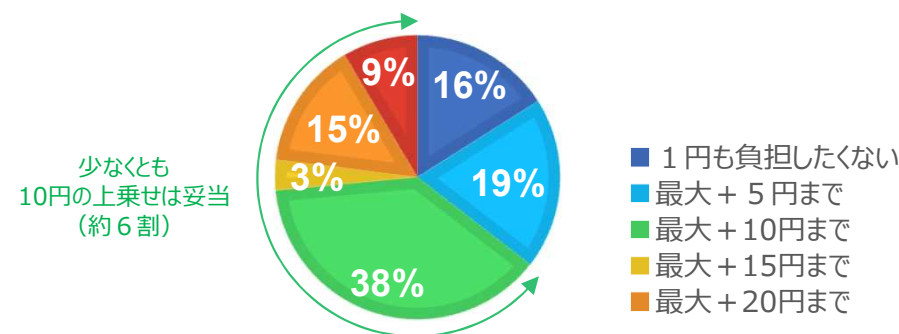
◆ 運賃に上乗せすることの賛否

Q.バリアフリーの整備費用のすべてを運賃に上乗せし、あなたを含む路線の利用者に均等に負担してもらおうとしたら、どう思いますか。



◆ 妥当と思う上乗せの金額

Q.乗車する距離に関わらず、1回の乗車につき、最大何円までなら上乗せが妥当だと思いますか。



検討体制

<委員>

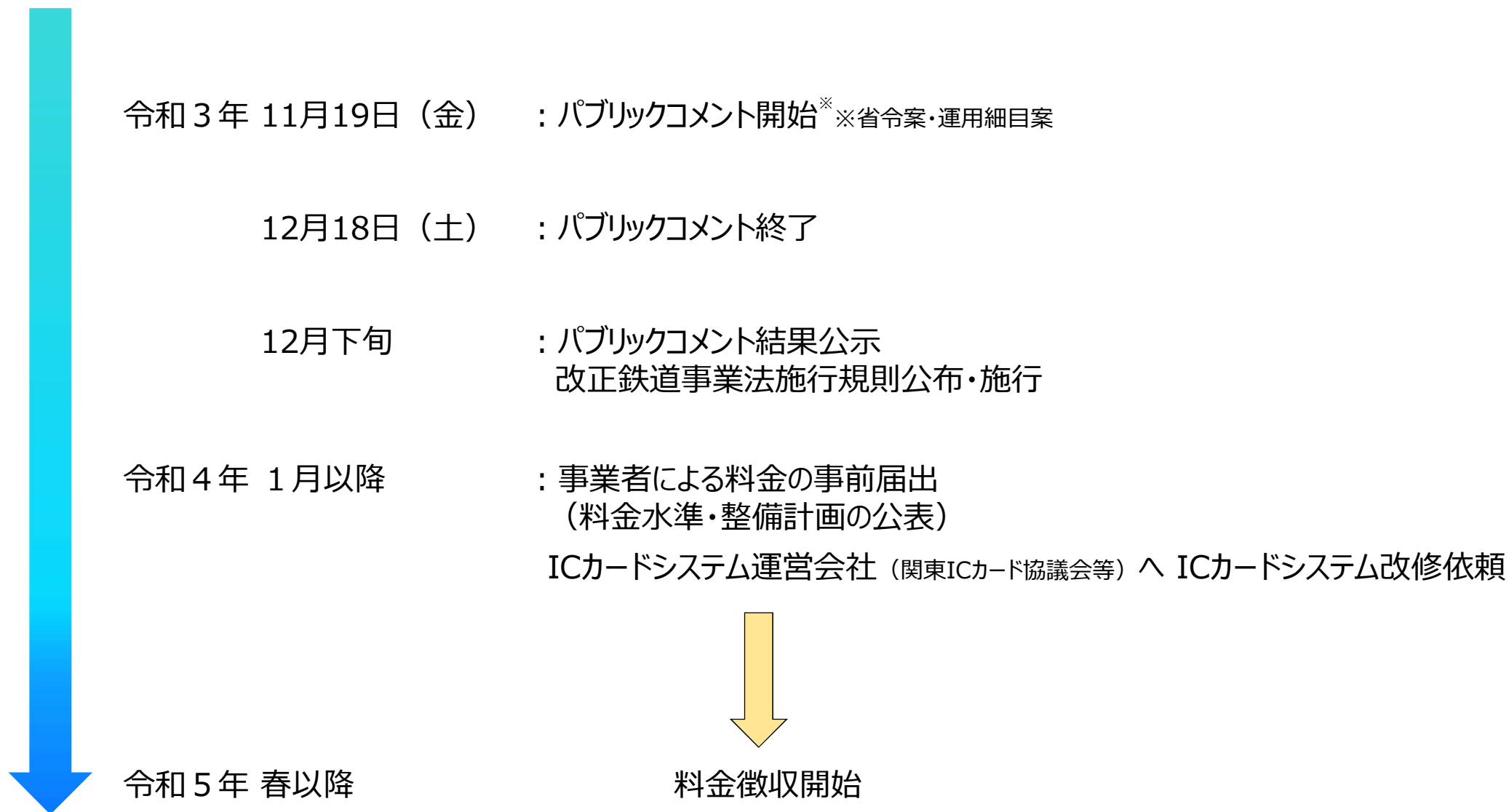
学識経験者等	山内弘隆 一橋大学大学院経営管理研究科教授 (座長)
	大橋弘 東京大学大学院経済学研究科・公共政策大学院教授
	秋池玲子 BCGシニアパートナー&マネージング・ディレクター
鉄道事業者	JR東日本、JR東海、JR西日本、京王電鉄、東京急行電鉄、 阪急電鉄、日本民営鉄道協会
行政	国土交通省 鉄道局長、鉄道局次長

<オブザーバー>

消費者団体	河野康子 日本消費者協会理事 全国消費者団体連絡会前事務局長
行政	国土交通省総合政策局安心生活政策課、東京都

<アンケート概要>

- ◆ 対象エリア
5エリア・・・関東大都市圏、近畿大都市圏、中京大都市圏、その他の大都市圏※、大都市圏に含まれない地域
※札幌、仙台、新潟、静岡・浜松、岡山、広島、福岡・北九州、熊本の各大都市圏
- ◆ 属性
2属性・・・高齢者 (65歳以上)、非高齢者 (20～64歳)
- ◆ 調査方法
インターネット調査
- ◆ サンプル数
4,000人 (400人×5エリア×2属性)



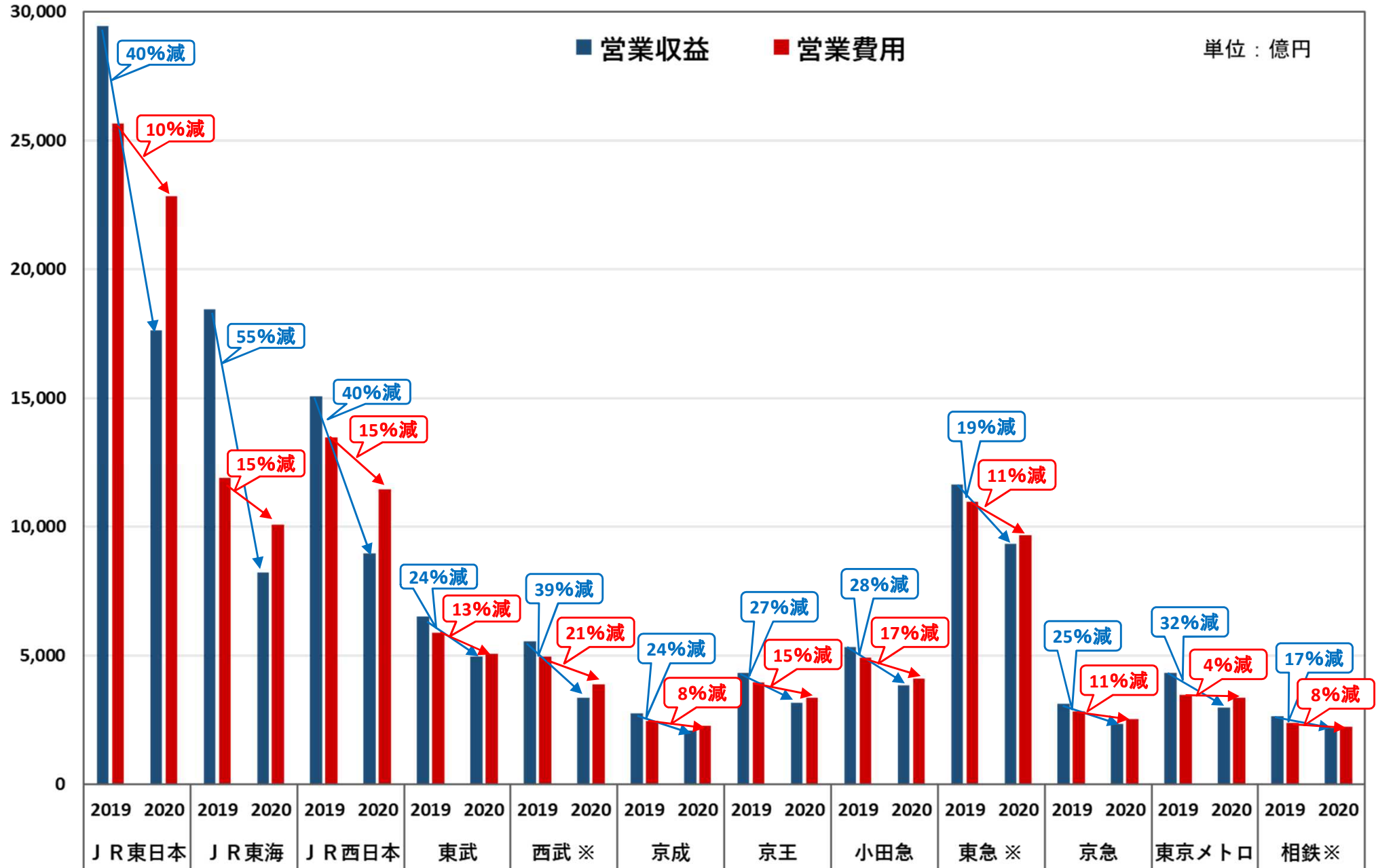
第2章 交通が直面する「危機」と、それを乗り越える決意

2) サービスの「質」の低迷

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出・移動の自粛により、旅客の輸送需要が大きく減少した。ポストコロナ時代においても、特に都市部では、通勤や移動のあり方の変容などにより、以前の水準まで需要が回復することは期待できないとの声もある。

交通事業者の収益が悪化し、投資余力が減少する中においても、利用者サービスの高度化に向けた継続的な設備投資は必要であり、そのための財源確保策を図る必要がある。

JR3社・関東大手民鉄9社の営業収益及び営業費用の推移(連結)



※持株会社

- JR東日本等は、ピーク期間の利用を分散させるため、座席指定料金に新たに「最繁忙期」を設定 (2022年4月～)
- JR東日本等は、利用実態等を勘案して、新幹線等のグリーン料金等の改定を実施 (2022年春～)

2021年10月5日
北海道旅客鉄道株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社

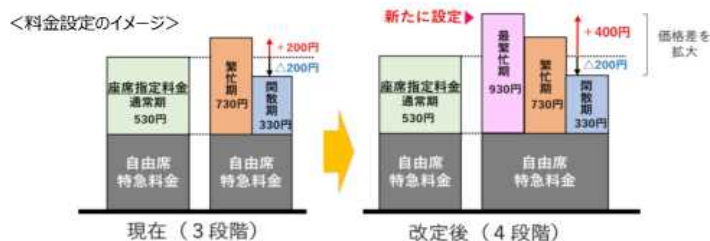
シーズン別の指定席特急料金の改定について

お客さまに混雑を避けて安心・快適に鉄道をご利用いただくため、2022年4月1日乗車分より、東北・山形・秋田・北海道・上越・北陸の各新幹線およびJR東日本の一部の特急列車においてシーズン別の指定席特急料金を改定します。ご利用時期に応じて4段階の料金を設定し、ご利用が集中する年末年始やGW・お盆期間などのご旅行の際に、ご利用日をピーク期間の前後にずらしていただくとお求めやすい価格となるよう、適用日カレンダーの見直しも行います。

1. 改定内容

(1) ご利用時期に応じた4段階の料金の設定

現在、特急列車の指定席特急料金はシーズン別に3段階に分かれており、閑散期は通常期の指定席特急料金の200円引き、繁忙期は200円増しとなります。今後は、ご利用が特に多い年末年始・GW・お盆期間に通常期の400円増しの「最繁忙期」を新たに設定し、4段階の料金設定となります。



(2) 適用日カレンダーの見直し

- ご利用の多い夏や秋の連休に繁忙期を設定します。
- 新たに設定した最繁忙期や繁忙期の前後の期間がお求めやすい価格となるよう、閑散期や通常期（一部の期間は繁忙期）を設定します。

＜2022年4月の適用日カレンダー＞



2021年10月26日
東日本旅客鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社

新幹線・特急列車のグリーン料金等の改定について

お客さまのご利用状況および経営環境の変化をふまえ、2022年春から、東北・山形・秋田・上越・北陸の各新幹線とJR東日本管内の特急列車の特別車両（グリーン車、グランクラス、プレミアムグリーン）に適用しているグリーン料金・グランクラス料金について改定します。ご利用のお客さまにおかれましては、何卒ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

1. 改定するグリーン料金等

会社	対象となる列車・設備
JR東日本	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東北・山形・秋田・上越・北陸の各新幹線のグリーン車・グランクラスに適用する料金 ○ 在来線特急列車のグリーン車に適用する料金 ○ 「サフィール踊り子」のプレミアムグリーン・グリーン個室に適用する料金 ※ 「なごみ」のグリーン車、「TRAIN SUITE 四季島」および「スペースシア」の個室の料金は除きます。
JR西日本	○ 北陸新幹線のグリーン車・グランクラスに適用する料金

2. 改定内容

現行の料金は、JR東日本が2002年の東北新幹線八戸開業時にご利用促進を目的に値下げを行ったものをベースとしています。このたび、一部の営業キロ帯を除き、JR6社共通のグリーン料金（JR各社にまたがる場合のグリーン料金）と同等の水準に改定します。またグランクラス料金と「サフィール踊り子」のグリーン料金についてもベースとなるグリーン料金の変更となることから改定します。

(1) グリーン料金

営業キロ	100キロまで	200キロまで	300キロまで	400キロまで	500キロまで	600キロまで	700キロまで	701キロ以上
現行	1,050円	2,100円	3,150円	4,190円	4,190円	4,190円	4,190円	5,240円
改定	1,300円	2,800円	4,190円	4,190円	5,400円	5,400円	5,600円	6,600円

- ※ 601キロから700キロまでの料金は、JR6社共通のグリーン料金より低廉な価格を設定します。
- ※ 「成田エクスプレス」のグリーン料金は、距離にかかわらず現行は2,100円ですが、改定後は2,800円となります。
- ※ 新幹線でJR東日本とJR西日本またはJR東日本とJR北海道にまたがる区間をご利用の場合のグリーン料金は、それぞれの区間に対して算出したグリーン料金を合算した額となります。
- ※ 在来線特急列車でJR東日本とJR他社とにまたがる区間をご利用の場合のグリーン料金は、変更ありません。